

高瀬志帆さん

漫画家

時代の空気や変化を
肌で感じられつつも
どこか牧歌的で素朴
それが武蔵野らしさかな



中学受験を題材に家族や教育の問題を浮き彫りにする
人気漫画『二月の勝者』。吉祥寺のまちと人をリアルに描く
漫画家・高瀬志帆さんの目が捉えた武蔵野らしさとは。



高瀬志帆先生の
直筆サイン本を
プレゼント！詳
しくは23ページ
をチェック！

武蔵野市に住むようになって18年ほど、

井の頭恩賜公園近くの三鷹市も入れると25年くらい、このエリアに住んでいることになります。漫画を描き始めて、結婚を機にこの辺りに移り住んだ感じです。昔から吉祥寺周辺には漫画家がたくさん住んでいるので、漫画の聖地というか、憧れもありましたね。中高生の頃、美内すずえ先生の『ガラスの仮面』を愛読していたのですが、漫画に登場する北島マヤが井の頭恩賜公園の野外ステージで芝居をしたり、伊勢丹（現コピス吉祥寺）の前でチラシを配るシーンがあって、初めて実際の場所を見たとき、「ああ、ここだー」とうれしくなりました。

住んでみて実感したのは、武蔵野市は漫画家という職業ととても相性がいいということ。漫画家としては自分の世界を保ちつつ世の中の動きにも敏感でいたいので、気分転換に散歩できる広い公園があって住み心地がいいだけでなく、お店や人から時代の空気と変化を肌で感じることができる武蔵野市は魅力的です。

今、連載中の『二月の勝者―絶対合格の

教室―』は吉祥寺が舞台です。以前、中学受験の漫画で作画を担当した際、こんな世界があるのかとカルチャーショックを受け、誰もやっていなかった「学習塾をビジネスの視点で捉えた漫画」を描いてみようと思いました。本作は、かなり綿密に取材をしているので、塾経営の裏側や保護者と子どもたちのありようはリアルだと思います。吉祥寺の風景も描き込んでいたので、かつて私が『ガラスの仮面』で体験したような楽しみ方をしてもらえたらうれしいですね。20年以上、このエリアに住んでいて少しさびしく思うのは、近頃はまちが洗練されていって、以前のような牧歌的な雰囲気になくなりつつあることです。例えば、ふらっと立ち寄れる吉祥寺美術館や手作り感のある市民文化会館のチラシなど、まちの中に自然と文化的なものが溶け込んでいるところは「武蔵野らしさ」だと思います。今後文化的なところを大事にして、将来的には市内に漫画ミュージアムができたらしさではないでしょうか。

高瀬志帆（たかせ しほ）

1995年デビュー。著書に『中学受験をしようかなと思ったら読むマンガ』やドラマ化もされた『おとりよせ王子 飯田好実』など。現在、小学館・週刊ビッグコミックスピリッツにて『二月の勝者―絶対合格の教室―』を連載中。同作は柳楽優弥主演でTVドラマ化も決定している。